



# 潮来市地域おこし協力隊





## -Profile-

### 2期生



もりやま けんご  
森山 健吾

茨城県日立市出身。大学進学を機に上京。卒業後は広告代理店に就職するが、「地元茨城のために何かできないか」というかねてからの想いを実現させるため、地域おこし協力隊になる。活動テーマは、「潮来の魅力発信」、「茨城県立潮来高等学校との交流」等。

(2018.8.20～2021.8.19)

### 3期生



こばやし まさひで  
小林 正英

北海道北広島市出身。大学生のころから、お笑い、レストラン、塾講師、起業(副業)、町役場職員、と様々なことを経験。町役場職員の時代に、地域おこし協力隊という制度を知り、目指すことに。数ある募集の中で潮来市を選んだ理由は「面倒見のいい職員付き」という募集記事に書かれてた文言に惹かれて。活動テーマは「ビジネスを通じた潮来市の発展」。

(2020.11.1～)

## -Contents-

- 03... 地域おこし協力隊に迫る①  
森山健吾隊員をクローズアップ!
- 06... 地域おこし協力隊プレゼンツ  
写真で見る潮来の魅力 -いたこフォト-
- 07... 地域おこし協力隊に迫る②  
小林正英隊員をクローズアップ!
- 10... 地域おこし協力隊プレゼンツ  
潮来の魅力は人の魅力!? -いたこ人-
- 11... 特別対談  
～担当職員×地域おこし協力隊～

### -地域おこし協力隊とは？-

都市地域から過疎地域に住民票を異動し、一定期間地域に居住して「地域協力活動」を行いながらその地域への定住・定着を図る取り組み。全国で約5,500人(R2年度)、茨城県では71人(R3.7.1現在)の地域おこし協力隊が活動中。

随時発信中!!  
フォロー&いいね!  
お待ちしております(\*^▽^\*)



Facebook



Instagram





## 若者のチカラは地域のチカラ+

協力隊の活動をしながら、活動の軸として見つけたのが、「茨城県立潮来高等学校の高校生との交流」でした。その背景には高校生たちに

- ①挑戦・チャレンジできる機会をつくりたい
- ②地域について考える機会をつくりたい
- ③卒業後の進路の幅を広げたい(やりたいことを見つけてほしい)などの思いがありました。



## 『魅力』は誰かに知ってもらって初めて『魅力』になる+

活動のメインでもある「魅力発信」。潮来の魅力をどんなふうに発信すればより多くの人に届けられるのか。そんなことを考えながら活動してきました。

市内向けには「協力隊しんぶん」、市外向けには「SNSやYoutube」などを活用しながら発信してきました。着任翌月から毎月欠かさず発行してきた協力隊しんぶんも徐々に地域での認知度も高まり、「この前、しんぶん見たよ!」、「いつもしんぶん見てるよ!」などの声をいただく機会が増えました。潮来の魅力を発信しながら、自分たちについても知ってもらえているのかなと思っています。まさに協力隊と地域住民をつなぐ大切なツールですね!!

その他にも移住・定住公式ホームページ「潮来暮らし」の管理・運営、潮来市社会福祉協議会広報委員会委員長(令和2年2月~)などにも携わっています。成果の見えにくい魅力発信ですが、間違いなく言えることは「これまで発信してきたことが無駄になることはない」ということです。誰か一人にでも伝えたいことが伝わっていれば魅力発信をしてきた意味はあったはず。もちろん、目に見えるかたちで何かひとつでも活動の実績として地域に残っていてくれたら、これ以上嬉しいことはないですね。

活動をする中で潮来のポテンシャルの高さを感じる機会も多くありました。埋もれている多くの魅力を発掘するとともにそれをどう発信していくのが今後大切になってくるのではないかと考えています。

ようやく見えた私にとっての地域おこしとは、『地域に変化をおこす』ことです。3年間の魅力発信によって地域に少しでも変化や新しい風を巻き起こせたでしょうか。これまでの活動が地域やそこに住む人(地域住民)に何かしら影響を与えられていたら嬉しいです。

私ができることは微々たるものですが、そんな思いを実現するため、2019年から少しずつ高校生とかかわる機会を作り、一回一回の交流できる機会を大切にしてきました。そんな高校生との交流活動を評価いただき、何かあった際にはお声がけいただく機会が増えました。その結果、「イルミネーション事業」、「地域連携事業(高大連携)」、「行方交流圏協議会 レストランプロジェクト」など多くの場面で高校生と交流させていただきました。そして、最後の交流では集大成として講演を実施させていただき、協力隊3年間の学びや経験、「地域おこし」にかける想いを伝えました。生徒たちに何かひとつでもこの思いが伝わってくれていたら嬉しいです。

高校生との交流は楽しくやがいのあるものでしたが、その反面難しさを感じる場面もあり、毎回私自身勉強でした。高校生にとってやらされているという気持ちではなく、自分事として捉え、積極的に活動してもらうためにはどうすれば良いかと常に考えていた気がします。また、高校生らしい考えや想いに触れるたびに刺激を受けることもありました。高校生と交流するときは、なんだか自分も当時を思い出して若返ったかのように活動できていたのかなと思います(笑)。だからこそ、高校生と過ごす時間にやりがいを感じていたのはもちろん、楽しかったですね!



一番最初にかかわった高校生たちも今もう3年生。高校生とやりたかったことを挙げればきりが無いのが正直なところですが、後悔はなく満足しています。そして、交流をする中で感じてきた、「高校生の持つチカラ」の可能性。高校生が動くことで地域住民が動く。地域住民が動くことで地域が動く。私の目指してきたこの理想が、これから先少しずつ地域で根付きはじめていくことを期待したい。

最後になりますが、さまざまな要望を受け入れてくださった高校の先生方、関係者の皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました!!



『潮来市地域おこし協力隊しんぶんバックナンバー』も見るができます!



## ↑ 潮来への恩返し ↓

2021年1月より、市内の小中学校で講演を実施してきました。というのも、潮来という地域で学んだこと・経験を次の世代に伝えていくことが協力隊最後のミッションと考えていたからです。そして、潮来という地域への恩返しに少しでもなればという思いがあったからです。

講演の中で子どもたちには、「ヨソモノ視点で見ると潮来」について話してきました。なぜなら、「地域の当たり前は、外から見ると魅力」という

ことに気づき、「当たり前の日常の中に、魅力がたくさん詰まっている」ということを知ってほしかったからです。講演後に毎回実施するアンケートには、伝えたいことがちゃんと伝わっていると分かる感想が多くありました。何かひとつでも子どもたちに気づきや学びがあれば講演は成功だったと思います。そして、これまで以上に潮来を好きになってもらい郷土愛を育むきっかけになっていたら嬉しいです。

潮来を離れる離れないにかかわらず、子どもたちが大人になったときに、ふと「そういえば、子どものころあんな話を聞いたなあ」と思い出してくれたら、改めて故郷について考えるきっかけになるはずです。そして、今回子どもたちに渡したバトンがさらに次の世代へと引き継がれていくことを期待しています。最後になりますが、講演を受け入れてくださった先生方、関係者の皆様本当にありがとうございました。



## ～いたこフォト～

潮来に移住し、活動・生活している地域おこし協力隊が独断と偏見で選ぶ、潮来ならではの写真やお気に入りの写真を集めてみました！写真で見る潮来をぜひ、ご堪能ください！



る舟から見る霞ヶ浦に沈む夕日  
(常陸利根川)



る舟から見る幻想的な夜の雰囲気  
(水郷潮来あやめ園)



ひらけた景色の中にある田んぼに感動！



米どころ潮来の黄金色に輝く稲穂

## -Another Story-



2019年1月から「潮来ソフトテニススポーツ少年団(以下スポ少)」でコーチとして活動しています。子どもたちとの交流を求めている私にとっては最高の環境です。

週末は毎日スポ少の活動があります。それでもスポ少の活動が大変だと感じたことはありません。私自身子どもたち以上にテニスを楽しんでいるからかもしれません(笑)。そして、リフレッシュにもなっているので、より一層協力隊の活動が頑張れているのかなと思います。私にとってスポ少の活動が想像以上に大きな存在だったんだなということを最近実感しています。

約2年半という活動の中で、出会いがあれば別れもありました。過ごす時間が長くなるほど子どもたちへの思い入れも強くなっています。一緒に活動できる時間は残りわずかですが、無限の可能性を持つ子どもたちの成長に少しでも貢献できればと思います！！



る舟に装飾したイルミネーション  
(水郷潮来あやめ園)



間近でみる白鳥やカモは迫力満点！  
(白鳥の里)





小林正史

地域おこし協力隊として潮来市に着任して半年。ここでの暮らしにも慣れていよいよ、「地域おこし」に本腰を入れて取り掛かろうとしているところです。

私の活動テーマは、「ビジネス」。大学生のころから研究してきた起業やマーケティングなどの知識を使って、地域の事業者さんを支援したり、私の昔からの目標だった起業をここ潮来で叶えたいと思っています。2021年7月現在、コロナウイルスが猛威を奮う状況下で、都会から離れたところでのワーケーションや地域移住が、注目されています。このようなときに潮来市に地域おこし協力隊として着任することができたのも何かの縁。私の関心ごとである「ビジネス」と世の中の関心ごとである「地域」、これら2つを組み合わせたいなあと

考えているところです。

現在、『ITAKO働きナビ』というサイトの運営を任されています。所管である観光商工課とこまめに打ち合わせをし、まだあまり手を付けられていませんが、もろもろの準備が整い次第、このサイトを盛り上げていく予定です。活動テーマである「地域ビジネス」とこのITAKO働きナビを組み合わせ、潮来とそれ以外の市町村の企業やフリーランスをつなぐ地域ビジネスのためのマッチングサイトなんてできれば面白そうだなと、今この記事を書きながら妄想してみました笑。

しかし、こういった妄想の中で面白いアイデアが浮かんでくることって結構ありますよね。卒業まで後約2年半、アイデアを現実にするために頑張っていきます！



さて、ここからは、約半年という短い期間ですが、わたしがこれまで関わった事業をいくつか紹介します。半年しか経っていないのに、めちゃくちゃ懐かしい気持ちになるものばかり笑。それではいってみましょう！

## ↑ 潮来のいちごとふわふわこめパンケーキ開発事業 ↓

2020年11月、潮来高校の生徒と筑波大学の学生及び市民サポーターが共同で、潮来の町づくりについて考える「潮来まちづくりシンポジウム」が行われました。その中でアイデアとして挙げられた潮来の特産品であるお米を使ったパンケーキ。この事業はその流れを汲んで、潮来の米を使ったパンケーキを実現させるということです。



この話をいただいたのは1月下旬。そして年度内に事業を成功させるということで、猶予は約2カ月間。その中で、高校生への商品開発の授業や先生方とのやり取り、製造・販売場所である道の駅とのやり取りなどやることはたくさん。なかなかハードでしたが、結果としては、高校生が考えた米粉を使ったパンケーキ「潮来のいちごとふわふわこめパンケーキ」を道の駅いたこが実現し、無事販売へとこぎつけることができました。

10日間で約2000個を販売。目標は500個売ればいかなと思っていたのでうれしい誤算です。これもすべて高校生のおかげ。いろんな課題も見つかりましたが、高校生が喜んでたので良しとします笑。

## ↑ 小中学校での授業 ↓

森山隊員が、企画した小中学校での講演事業。その繋がりでもう一度は小中学校側から、森山隊員と私2人に総合の時間で行う調べ学習のヒントになるような授業をしてほしいと牛堀小学校と潮来第二中学校からオファーがあり、2人で授業を行うことになりました。

テーマは、地域おこし協力隊から見た潮来の魅力。潮来市出身ではない私たちから見た潮来の魅力について、トークライブ形式で話しました。少しでも生徒のプラスになれば幸いです。また、森山隊員とガッツリ絡んで事業をやるのは、おそらくこれが最後。とてもいい思い出になりました。





## ↑ テレワーク移住体験ツアー ↓

コロナウイルスの影響により、世の中の働き方が、がらりと変わりました。その中で注目されているのが会社以外のところで働けるテレワーク。この事業は潮来市でのテレワークを移住ツアーとして体験。それを通して移住を考えてもらうというもの。ざっくり言うとワーケーションに近いです。ビジネスに興味があるということで、初めて担当者の方が任せてくれた仕事だったので、当時はめちゃくちゃ嬉しかったです。事業者と連絡を取り合いながら、ツアーの行程を考えたりしたのですが、ツアーの日程が、コロナウイルスに係る緊急事態宣言の期間と被ってしまい中止に、、、さらに、募集人数MAX5人のところ、約40名もの応募があったということもあり、とても悔しい思いをしました。しかし、約40名の方には少しですが潮来について知ってもらうことができたことは嬉しいこと。今後の市のテレワーク事業に期待したいです。



## ～いたこぴと～

活動の中で出会った、精力的に活動している「いたこ人」を紹介します！



1999年に釣具WEB SHOPを開設し釣具部門で労働生産日本一を達成。全国商工会連合会で1名のみ選出の第二創業塾カリキュラム作成メンバーに選ばれる。潮来駅前的人气店イタリアンガレージのオーナーでもある。

むらた こうじ  
村田康次さん

## ↑ 新しい地域おこし協力隊の募集戦略 ↓

潮来市の地域おこし協力隊は森山隊員と私の2名(2021年7月現在)。2021年度潮来市の地域おこし協力隊の上限はMAX3名。つまりあと一人募集することができます。そこで、新しい協力隊の採用に向けて、地域おこし協力隊として、採用戦略に係ることになりました。採用戦略をつくる際に、一番考えたことは地域おこし協力隊という制度の見方を変えること。一般的に地域おこし協力隊という制度は、その名のとおり「地域おこし」のための制度であると考えられがちです、しかし、実は地域おこし協力隊は「地域おこし」だけでなく、実は「自己成長」もできる制度。3年間の任期のうちに、自分の好きなことで食べていく基盤を作り、できるならその地に定住する。実はそういう一面もあるのです。



今回の募集では、そういう面を前面に出して採用ページを作りました。具体的には、「デザインや広告の初心者が3年間の任期で一人前のデザイナーになる」というものです。結果、募集人数1名のところ、15名もの応募がありました。昨年の応募は、私一人だったみたいなので、一気に倍率と難易度が急上昇。本当は応募してくれた方、皆さんと仕事したいのですが、残念ながらそうはいきません、、、泣。合格発表は8月中を予定。合格された方と一緒に活動するのが楽しみです。

90年余続く児玉時計店の三代目。時計技能競技全国大会青年部門優勝の確かな時計修理技術を持ち100年以上前の時計を修理することも。すでに販売が終了し、入手困難な部品は自作して修理を行う。



こだま こういち  
児玉晃一さん



おざわ よしお  
小澤禧雄さん

創業は江戸時代。歴史ある老舗和菓子店「おざわ菓子店」の店主。伝統的な製法を守り、代々受け継がれてきた長崎カステラは一度食べてみる価値あり。材料にもこだわっていて基本的に無添加で作られている。



# 特別対談

## ～担当職員×地域おこし協力隊～

地域おこし協力隊には、基本的に担当の自治体職員が配置されます。担当職員や所属部署とのかかわり方ひとつで協力隊としての活動も変わってくると感じています。その中で、潮来市地域おこし協力隊の募集要項には『面倒見のいい職員付き』という謳い文句が初期のころからあります。令和3年度より協力隊の担当になった職員はもちろん、潮来市地域おこし協力隊導入の頃から5年間協力隊担当者として携わってきた前担当職員を交えた、協力隊との本音トークをお送りします。

※尚、対談の進行・執筆は元鹿嶋市地域おこし協力隊の松崎侑奈さんにご協力いただきました。



現協力隊担当者

前協力隊担当者

潮来市地域おこし  
協力隊2期生

潮来市地域おこし  
協力隊3期生

### -自分の気持ちをぶつけること-

**石田)** 私が地域おこし協力隊業務に携わった5年間はとても悩みが多かったです。まず、導入のとき色々な市町村に足を運んで協力隊について勉強しました。そこで分かったことは「職員がどれだけ寄り添ってあげられるか」ということでした。ただ来てもらって「じゃあお願いします」というわけにもいかない、一人ぼっちやミスマッチにならないようにするためにはどうしたらいいか、悩みながら過ごしました。

**森山)** 正直、今まで一人ぼっちだと思ったことはなかったですね。活動していく中で、課内の方はもちろん他部署の方も話しかけてくれました。石田さんには相談もたくさんしましたし、イベントの時には手伝っていただきました。やっぱり隊員だけで対応できないこともあったので助かりました。「自分の考えを主張していい、伝えていい」と言われたこともあって、おかげで活動に対しても前向きに捉えることができました。

**石田)** やっぱり、せっかく来てくれたのに窮屈な思いをしてほしくないっていう思いがあります。やりたいことをやらせてあげたいなって気持ちが強かったので、森山くんが引き下がりそうなとき、怒っちゃったこともありました。「なんで自分の気持ち言わないの！もっと自分の熱い



気持ちや想いをぶつけなきゃ伝わらない」ってね。隊員の後押しができるのは、関わっている者だけなので…。がんばってという気持ちでしたね。

**森山)** 潮来市の採用案内には「面倒見のいい職員付き」って書いてありましたよね！

**小林)** それが決め手となって応募しました。他の地域ではアピールしていないポイントでもありました。そして、実際に着任してみて「その職員は実在した！」と感じています。



**石田)** それ以外書けることないんです（笑）でもその言葉って大事だし、安心できるし親近感が湧くでしょ！！石神さんも面倒見がいいからね！潮来は面倒見のいいひとが多いのかも…

**石神)** 私も石田さんの意思を受け継いでいきたいと思っているので、何でも相談してほしいです。せっかく潮来に来てくれたんだから、精一杯大事にしたいです。

### -様々な人と関わることで見えてきたやりたいこと-

**森山)** 私はフリーミッションに近い採用で、その中でも「魅力発信・情報発信」をずっと続けてきました。情報発信の活動をしていく中で、潮来市のたくさんの魅力を知りました。食べ物とか工芸、そして人。外から来た私に対しても温かく受け入れてくれた感覚がありました。話をたくさん聞けたし、協力してくれる方もたくさんいて、思っていた以上に良いまちだなって思ったんです。なので着任して2年目あたりから地域の魅力でもある「人」、そして「若者」という観点から、高校生や市内の小中学生との交流活動を行ってきました。

**石神)** 協力隊がいることで、潮来の魅力とか「普段気づかない気づき」を再発見出来ました。勉強になったし、子どもたちにも郷土愛を伝える機会を与えてくれて、すごくありがたいです。

**石田)** 私たちにはできなかった「学校と繋がる」「地域資源の活用を考える」ことを実現させてきたことは本当にすごいと思います。やっぱり協力隊は柔軟性があって、魅力を引き出してきて、そのおかげで職員の潮来に対する見方も変わってきました。情報発信の観点なんかは、協力隊に影響されていることが本当にたくさんあります。





**石神)** 学校での講演に同行したときに、子どもに近い感じで接していて、「いいなあ」と思って聞いていたし、私が聞いてもとても勉強になる内容ばかりでした。

**森山)** 小林さんと一緒にやったときは、より楽しく講演が出来たと思います。小林さんは話の切り口が上手くて、子どもたちの興味のあることを上手く見つけている印象です。一人の講演とはまた違った楽しさがあり、生徒も先生も良い反応でした。

**小林)** 森山さんは意見の出しやすい方法とか勉強をたくさんしていたので、私が途中で参加したときもとてもやりやすかったです。

## -「やりたい」という言葉に、鳥肌がたったんです-

**石神)** 森山くんが入隊するときは、2名の隊員体制でスタートしました。初めての行政環境に戸惑いながらも、自分のミッションをこなそうと頑張っていました。でも、何かやらなくちゃという気持ちばかりが自分を焦らせ、活動する内容についても芯がブレてしまって、とても心配な時期もありましたね。相方の隊員が新天地での新たなスタートを切り、森山くんから「これがやりたい!」と提案してきたときの意気込みが鳥肌が立ち、自分のやりたいことが固まり、自信がついたんだなと思いました。その後の心配は全然なかったですね。

**森山)** そう考えると、ある意味一人になるタイミングがあって良かったのかもしれないですね。自分が何かしなきゃって気持ちになったんです。

**石神)** 小林くんも採用の時からとっても意欲が強かったから、やりたいことをたくさんやってほしいです。今はやらなくちゃならないことがたくさんあって「やりたいこと」から離れてないかな?って心配になることがあります。やりたいことが別にあるなら、石神さんに相談してほしい、隊員だからってミッションに囚われなくてもいいと思っています。やりたい事は変わるので、迷ったりしたら担当者に相談すること!!二足の草鞋でもいいから挑戦してほしいです。

## -コミュニケーションを大切に-

**森山)** 私は退任後、一旦地元に戻ります。でも、潮来で出来た繋がりを完全に切ってしまうのは寂しいですし、もったいない気持ちもあるので、何らかの形で繋がりを残していきたいと思っています。

**石神)** 正直、今でも潮来に残ったらいいじゃん?って思っています。でも、潮来で培った経験はいろんな場面で活かせるだろうから、たくさん活躍してほしいです!最後の日まで楽しく全うしてほしいです。潮来を選んで、三年間たくさんの魅力発信をしてくれてありがとうございます。これからも潮来市と末永いお付き合いをお願いします!

**石神)** これまでの経験を活かして、新しい道を築いてどんどん活躍してほしいです。そして小林さんにはこれからの三年間、潮来で楽しく全うしてほしいです。やりたいことどんどん自由にやってもらいたいと思っています。きっと三年はあっという間だから、縛られること無く活動してほしいです。



**森山)** 担当者が近いからこそ、安心して活動出来るんだなと実感しています。普段の業務も忙しいのに気を配って様子を見てくれたり、親身になってコミュニケーションの場を作ってくれてとてもありがたかったので、これからも変わらず隊員に寄り添っていただけたら嬉しいです。

**石神)** 私もコミュニケーションが一番大切なことだと思っているので、小林さんやこれから入ってくる隊員といい関係を築いていきたいです。

**小林)** これから入ってくる隊員の方は、不安なことがたくさんあると思いますので、私にできることなら、なんでも協力したいと思っています。そして私自身だいぶ潮来の暮らしにも慣れてきたことだし、そろそろ目標である起業に向かって動き出そうと思っています。

執筆：松崎侑奈

話し始めたらそれぞれの想いが止まりませんでした。話し足りない部分もありましたが、お互いがどんなことを考え、感じているのか改めて知ることができたと思います。この対談記事が、現役の地域おこし協力隊やその担当者、そして、地域おこし協力隊を目指している人にとって少しでも参考になれば嬉しいです。



## インタビュー・執筆者 プロフィール



松崎侑奈

元鹿嶋市地域おこし協力隊。2018年8月着任で森山隊員とは同期。協力隊退任後はデザイン・情報発信の仕事しながら、鹿嶋市内で誰もが気軽に集える場所づくりのために奮闘中。

今回、「同期かつ同じ鹿行地域で切磋琢磨しながら活動してきた仲間に入ってほしい」という相談が森山隊員からあり、対談進行・執筆の依頼を引き受ける。



茨城県東南部に位置する潮来市  
川や湖に囲まれた自然豊かな水郷地帯

四季を通して温暖で住みやすく  
人の温かさ優しさに溢れるまち

そんな潮来市で  
新しい風を吹かせてみませんか？

あなただけの  
“潮来暮らし”が待っている

さあ、ともに進もう



潮来市では、地域おこし協力隊を募集しています。  
募集要項等最新情報は、潮来市役所企画調整課まで  
(0299-63-1111)

## -編集後記-

活動にかける思いなどあまり話してこなかった部分まで書くことができました。無事協力隊最後の仕事として第二弾となる協力隊の冊子を完成させることができ、ほっとしているところです。1人でも多くの人の手に渡り、潮来のことそして潮来市地域おこし協力隊のことを知ってもらえたら嬉しいです！特に特別対談の内容は必見です！（森山健吾）

着任して約半年。この冊子を作ることを森山さんから話された時、6カ月という短い期間で自分を書くことなんてないのではないかと不安になりました。しかし、いざペンをとってみると出るわ出るわ思い出の数々。実はスペースの都合で書ききれないものもありました笑。自分が携わってきた事業について書いていると、潮来市民になったんだなあと改めて実感。この半年を振り返る良い機会になりました。この機会を与えてくださった森山隊員、職員の方々そして関わってくれた皆様に感謝です。（小林正英）

制作：潮来市地域おこし協力隊 / 発行：2021年7月